

## 「行財政改革に関する職員アンケート調査」結果

### H28.7 行政経営課

#### 1. 調査の目的

行財政改革に関する職員の意識を把握し、全職員の行財政改革への参加促進を進めるとともに、本年度策定する第三次坂井市行政改革大綱を策定する上での検討資料とするため実施しました。

#### 2. 調査期間

平成 28 年 6 月 22 日（水）～7 月 1 日（金）

#### 3. 調査対象

本庁・支所の正職員（再任用職員含む）

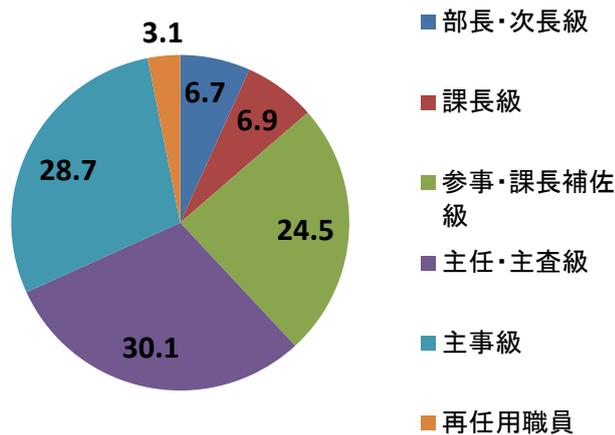
#### 4. 回収結果

総配布数 481人    回収数 449人    回収率 93.3%

#### I あなた自身のこと（回答者の構成）

【質問 1】 あなたの役職を教えてください。

構成比（単位：％）



役職	計	構成比 (%)
部長・次長級	30	6.7
課長級	31	6.9
参事・課長補佐級	110	24.5
主任・主査級	135	30.1
主事級	129	28.7
再任用職員	14	3.1
全体	449	100.0

【質問 2】 あなたの職種を教えてください。

事務吏員・技術吏員の区分については、回答者が特定される可能性があることから集計を行わないこととしました。

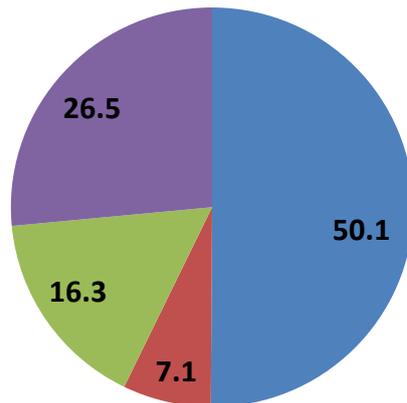
## Ⅱ 業務の現状に関すること

### 1 業務の改善

【質問3】業務に対するあなた自身の取り組みを振り返り、次の（１）～（５）について、現状に最も近いと思うもの一つにチェックしてください。

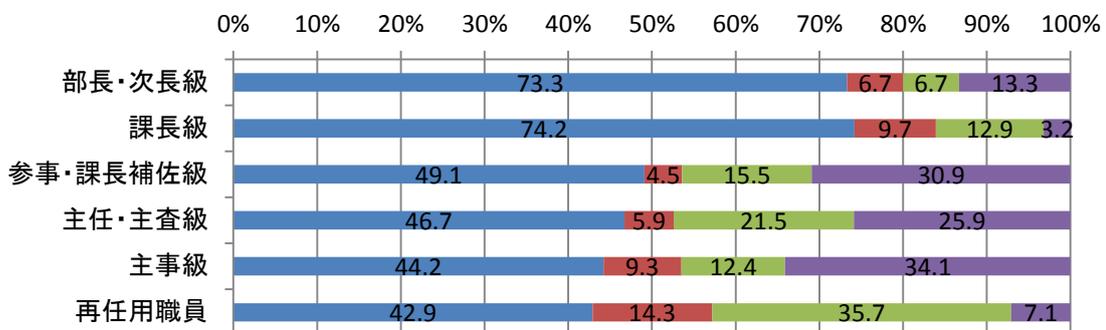
#### （１）業務改善について

##### ①構成比（単位：％）



- 1 前例や決まった手順のある仕事でも、常に改善すべき点がないかを検討している。
- 2 業務の進め方が法令等で定められているため、改善の余地を見つけることは難しい。
- 3 仕事の進め方を変えるには関係部署などとの調整に多大な労力が必要なため、実現が難しい。
- 4 業務に追われ、業務改善を考える余裕がほとんどない。

##### ②役職別の構成比（単位：％）

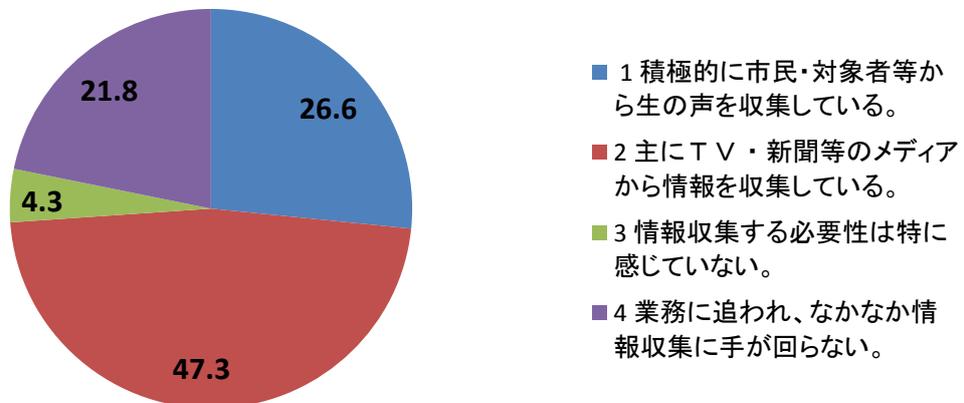


- 1 前例や決まった手順のある仕事でも、常に改善すべき点がないかを検討している。
- 2 業務の進め方が法令等で定められているため、改善の余地を見つけることは難しい。
- 3 仕事の進め方を変えるには関係部署などとの調整に多大な労力が必要なため、実現が難しい。
- 4 業務に追われ、業務改善を考える余裕がほとんどない。

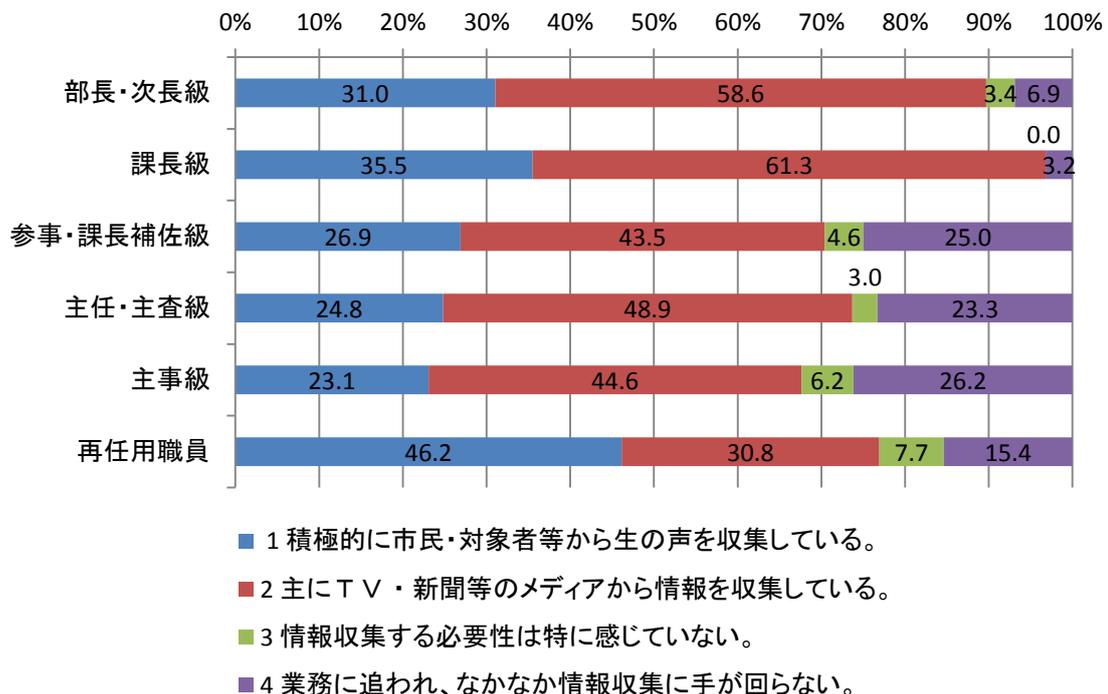
全体では、ほぼ半数の職員が業務の中で常に改善すべき点がないか検討しているが、役職別で見ると、参事・課長補佐以下の職員において、業務に追われ改善を考える余裕がないとする職員が一定数見られた。

## (2) 担当業務に関するニーズや情報の収集について

### ①構成比（単位：％）



### ②役職別の構成比（単位：％）

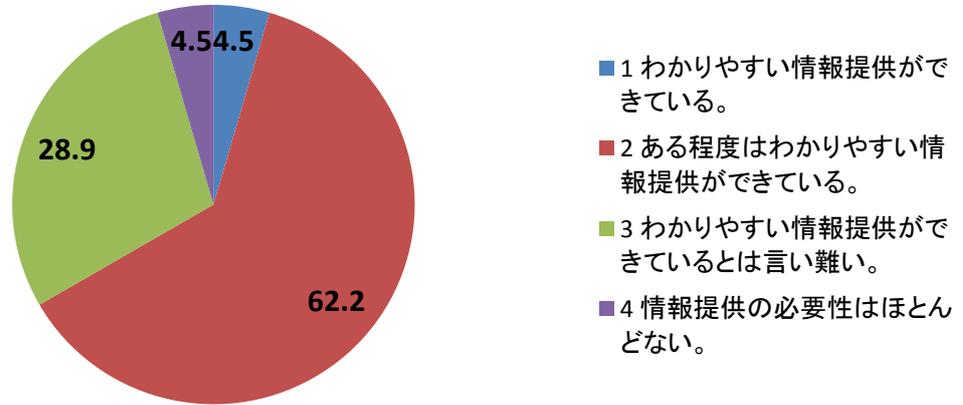


全体では、約4分の3の職員が担当業務に関するニーズや情報の収集を行っているという回答しているが、年齢別にみると参事・課長補佐以下の職員において、業務に追われ情報収集に手が回らないとする職員が一定数見られた。

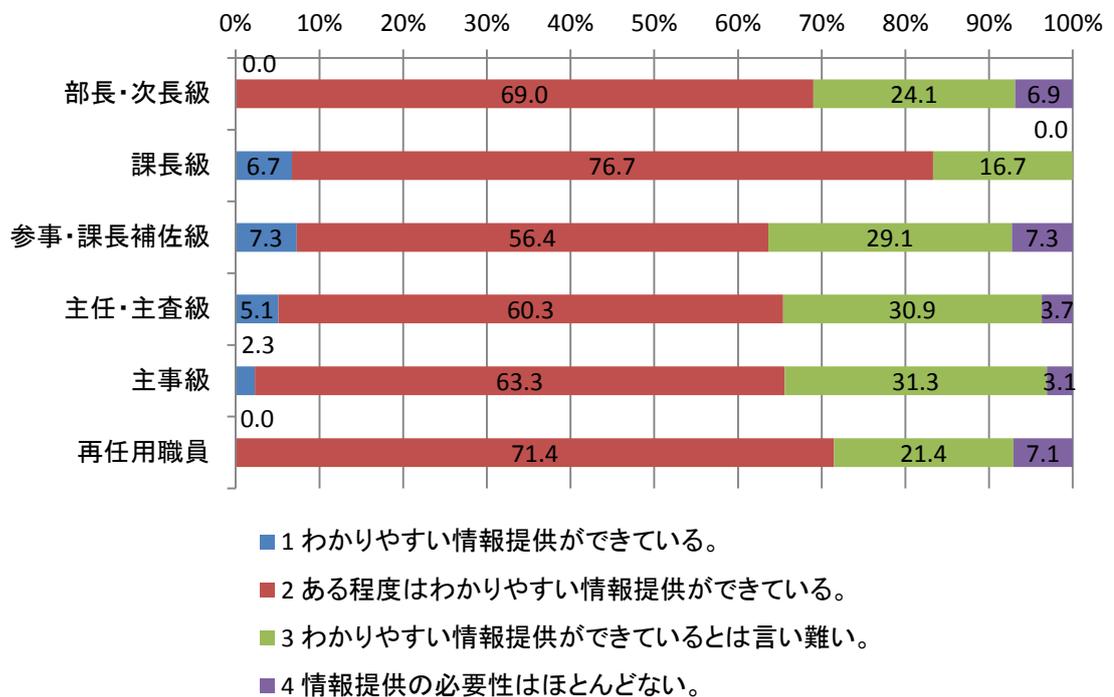
また、市民・対象者等から生の声を収集するよりも、メディアからの情報収集が主となっている傾向が見られた。

### (3) 担当業務に関する市民への情報提供（説明）について

#### ① 構成比（単位：％）



#### ② 役職別の構成比（単位：％）

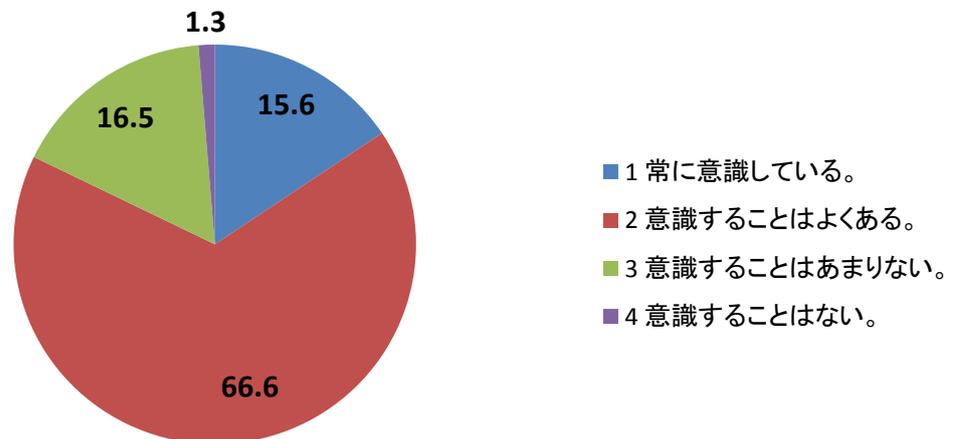


約3分の2の職員がわかりやすい情報提供ができていますと回答しているが、3割弱の職員はできていたるとは言い難いと回答している。  
また、情報提供の必要がほとんどないという回答も一定数見られた。

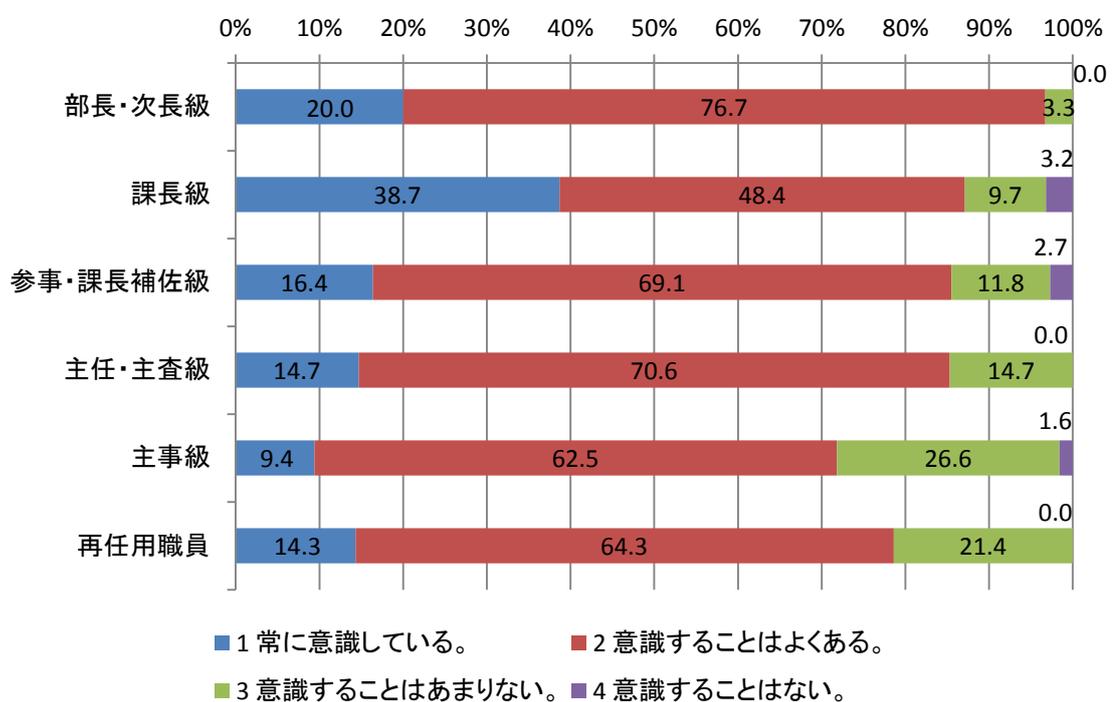
## 2 コスト削減及び効率性

【質問4】業務に対するあなた自身の取り組みを振り返り、コスト削減や効率性の向上に関する意識について、現状に最も近いと思うもの一つにチェックしてください。

### ①構成比（単位：％）

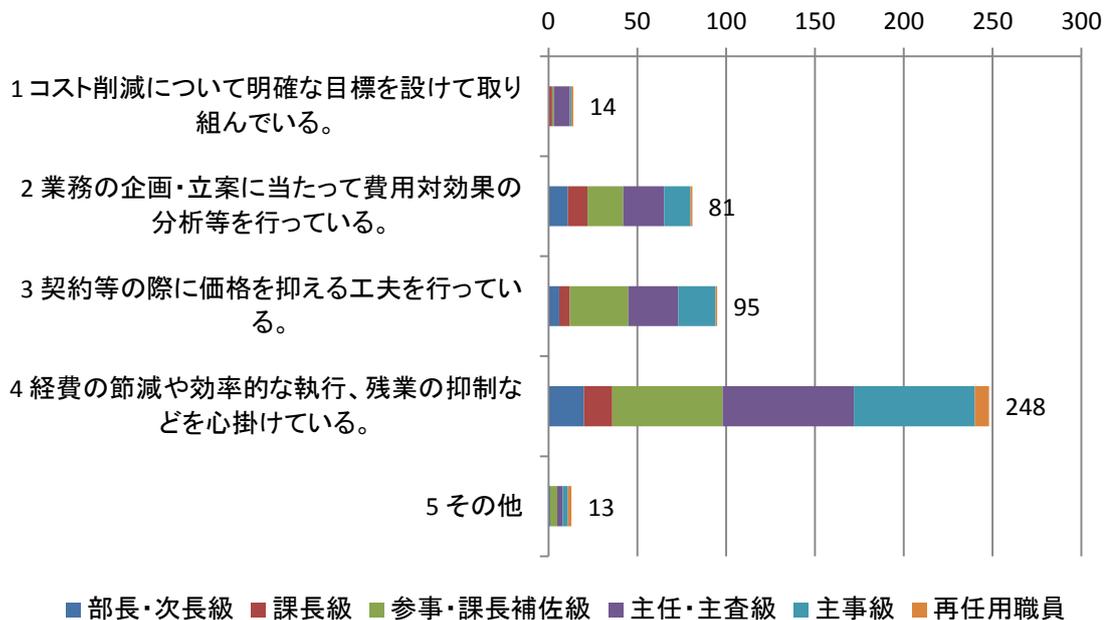


### ②役職別の構成比（単位：％）



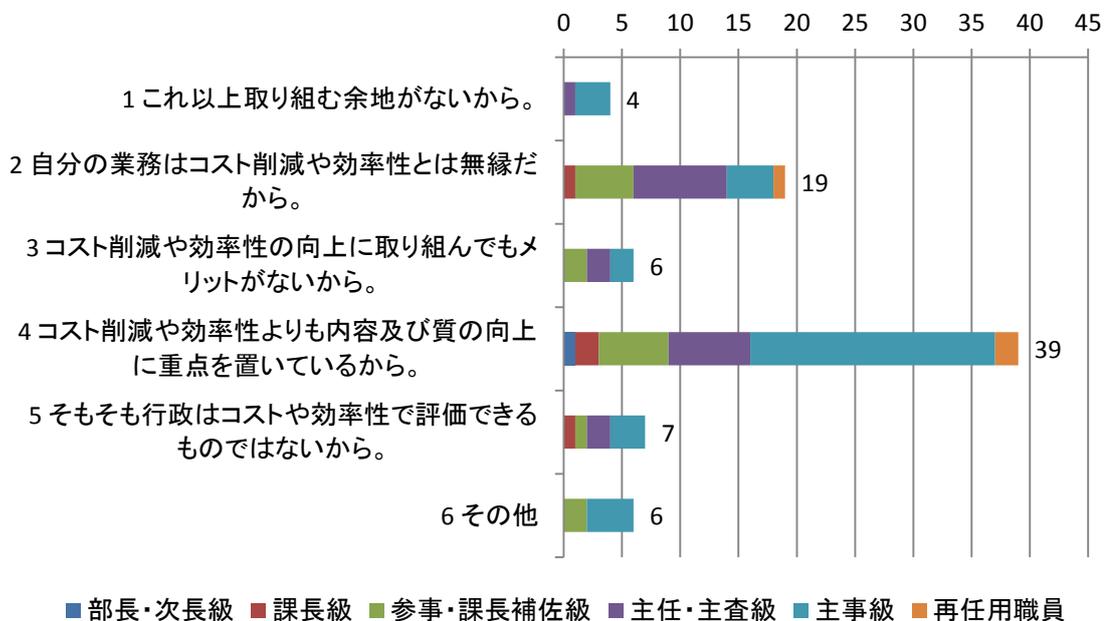
全体では、8割超の職員がコスト削減や効率性の向上について意識していると回答しているが、役職が下がるにつれて意識することがあまりないという職員が増える傾向が見られた。

【質問4-①】コスト削減及び効率性に関する意識を、あなたはどのような取り組みにつなげていますか。(複数回答可・単位：回答数)



コスト削減について、明確な目標を設けて取り組んでいるという回答は少数であった。

【質問4-②】「意識することはあまりない」「意識することはない」のはなぜですか。(単位：回答数)

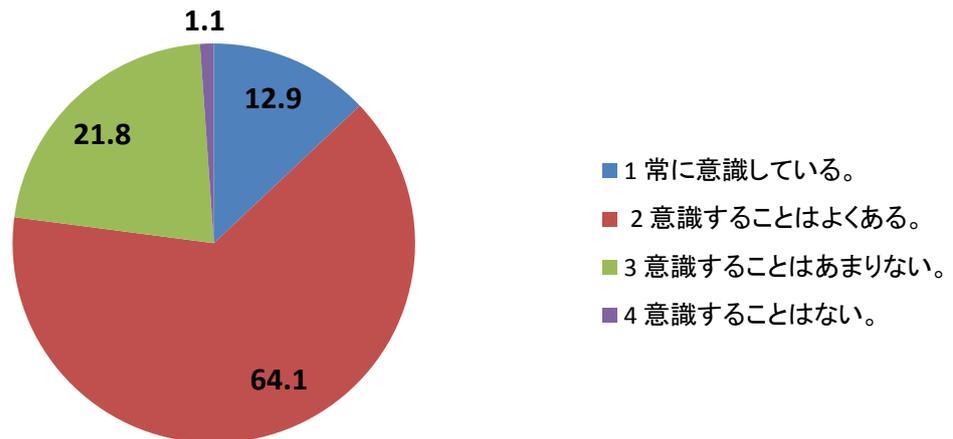


コスト削減や効率性よりも内容及び質の向上に重点を置いているという回答が多くあった。  
また、その他として、考える余裕がないという回答が一定数見られた。

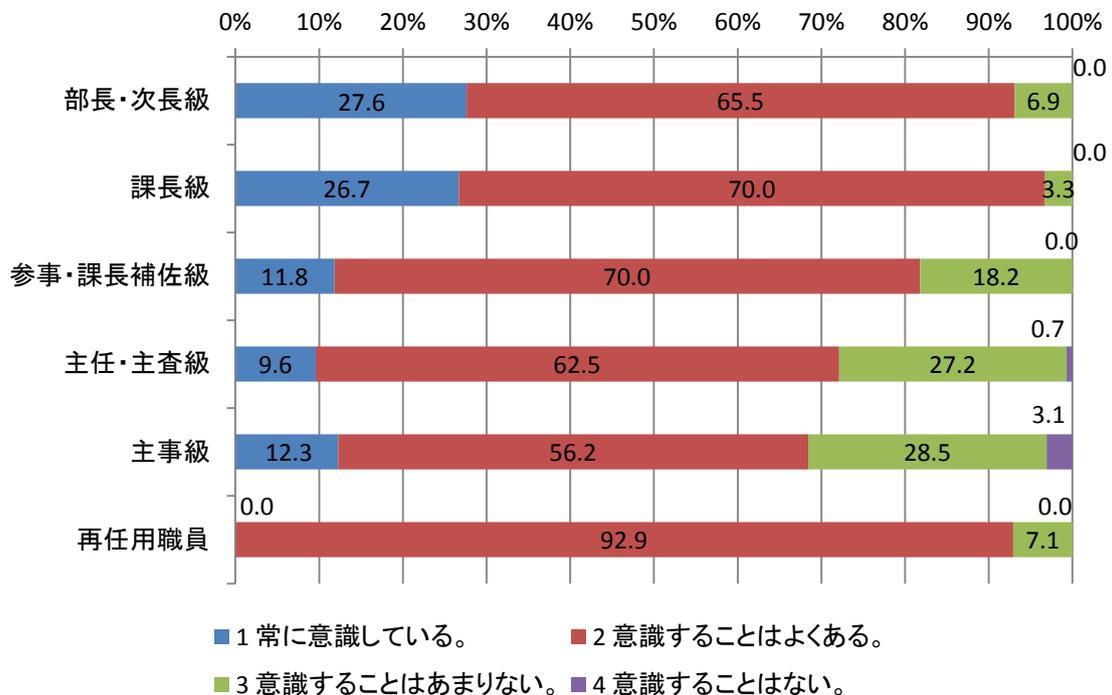
### 3 目標に対する意識

【質問5】業務に対するあなた自身の取り組みを振り返り、成果（業務を実施することにより得られる成果）に関する意識について、現状に最も近いと思うもの一つにチェックしてください。

①構成比（単位：％）

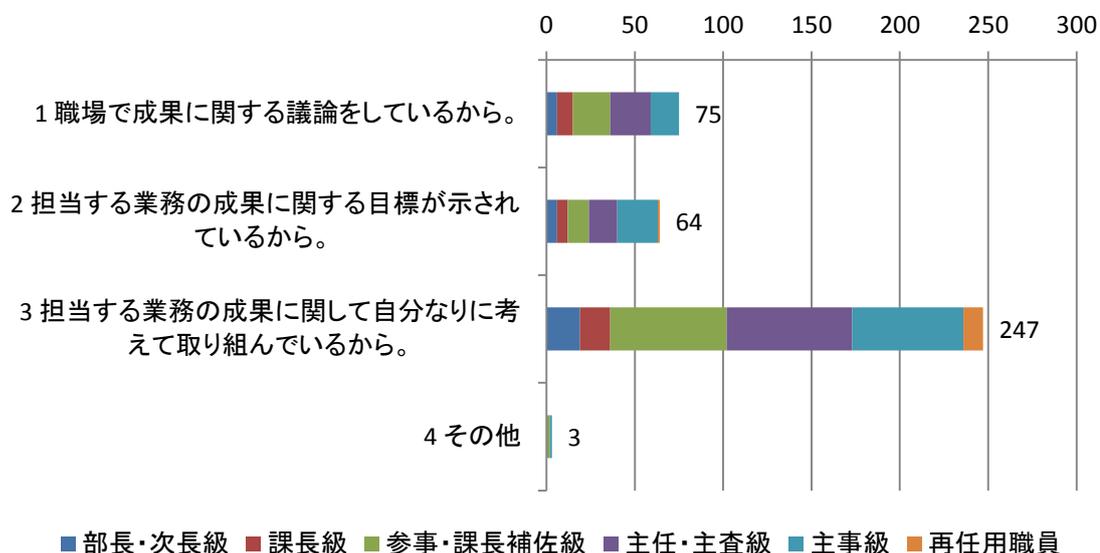


②役職別の構成比（単位：％）



全体では、8割弱の職員が成果について意識していると回答しているが、役職が下がるにつれて意識することがあまりないという職員が増える傾向が見られた。

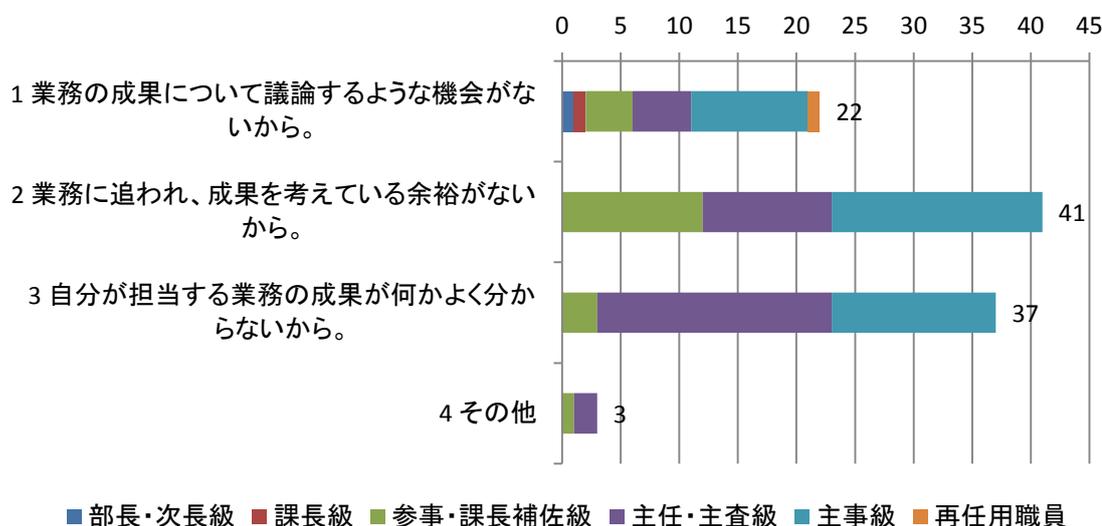
【質問5-①】どのような方法で意識していますか。(複数回答可・単位：回答数)



成果目標については、組織として設定しているよりも職員個人が設定しているという回答が多かった

【質問5-②】「意識することはあまりない」「意識することはない」のはなぜですか。

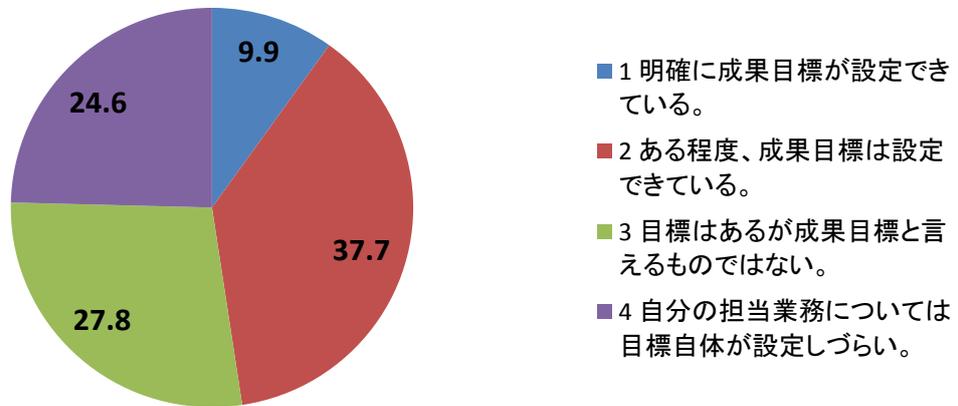
(単位：回答数)



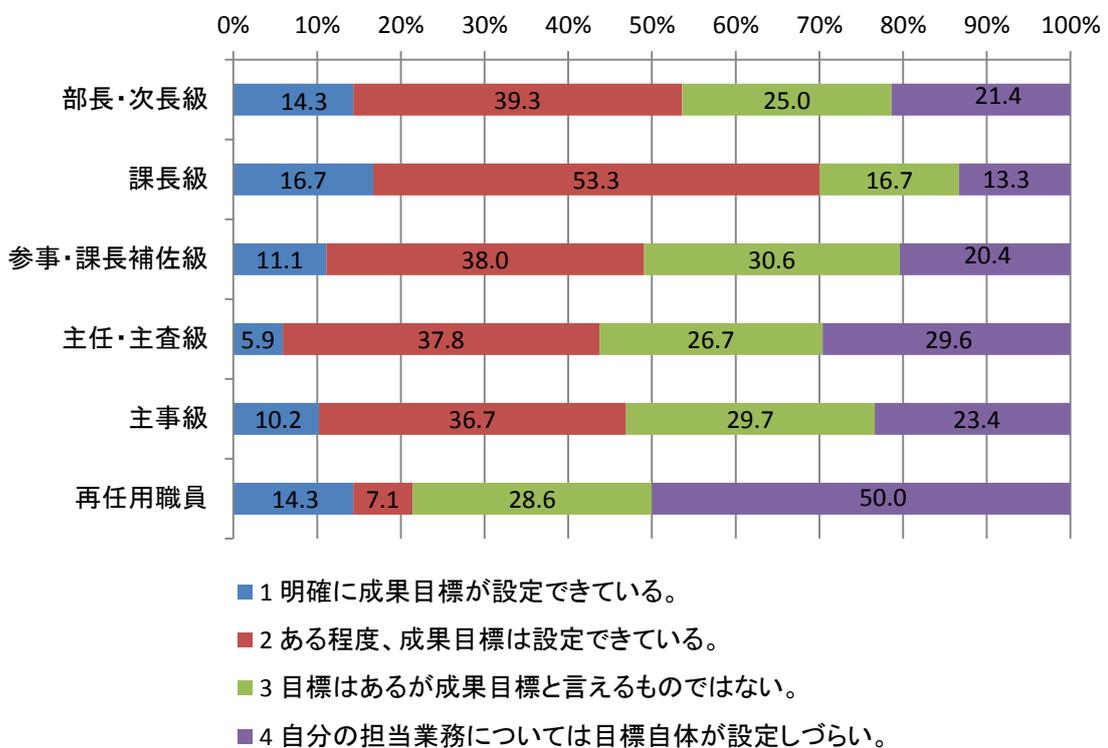
成果目標について意識しない理由としては、業務に追われ余裕がないという回答と、特に若手職員において自分が担当する業務の成果が分からないという回答が多く見られた。

【質問6】 あなたの担当する業務（事業、上位の施策を含む）は、明確に成果目標が設定できていますか。

①構成比（単位：％）



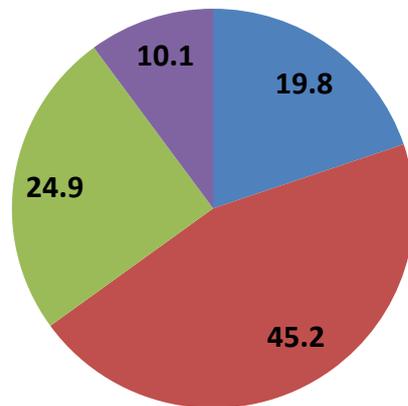
②役職別の構成比（単位：％）



成果目標が設定できているという回答は、全体の半分以下であった。自分の担当業務については目標自体が設定できないという回答も4分の1弱であった。

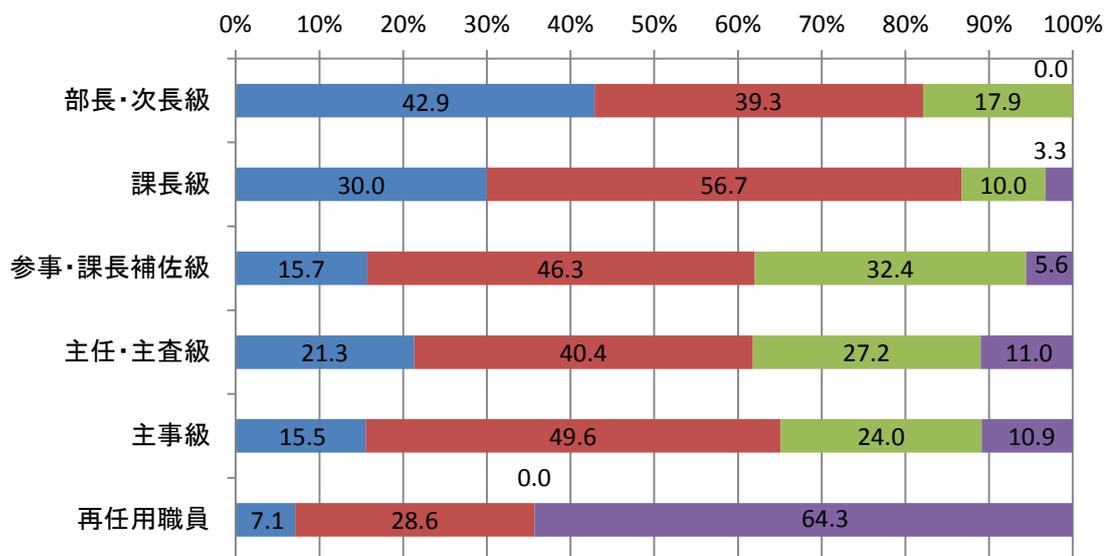
【質問7】 あなたは、日々の業務において、短期・中長期の目標を立てて計画的に仕事をしていますか。

①構成比（単位：％）



- 1 目標を立てて計画的に仕事をしている。
- 2 目標は立てているが計画的に進まないことが多い。
- 3 日々の業務に追われ、業務を計画的に行うに至っていない。
- 4 自分の担当業務は目標を立てなくてもできる種類の仕事である。

②役職別の構成比（単位：％）



- 1 目標を立てて計画的に仕事をしている。
- 2 目標は立てているが計画的に進まないことが多い。
- 3 日々の業務に追われ、業務を計画的に行うに至っていない。
- 4 自分の担当業務は目標を立てなくてもできる種類の仕事である。

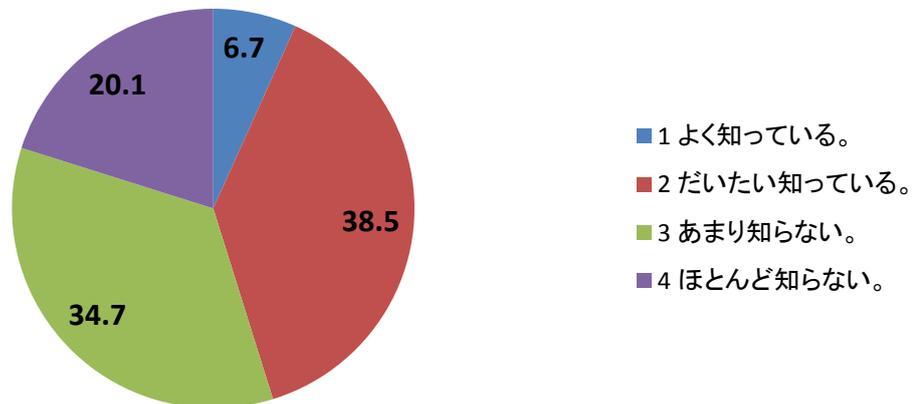
全体の3分の2弱の職員が目標を立てて仕事をしているが、そのうち7割程度が計画的に進まないことが多いと回答している。  
若手職員においては、日々の業務に追われ計画的に行うに至っていないとの回答が一定数見られた。

### Ⅲ 行財政改革について

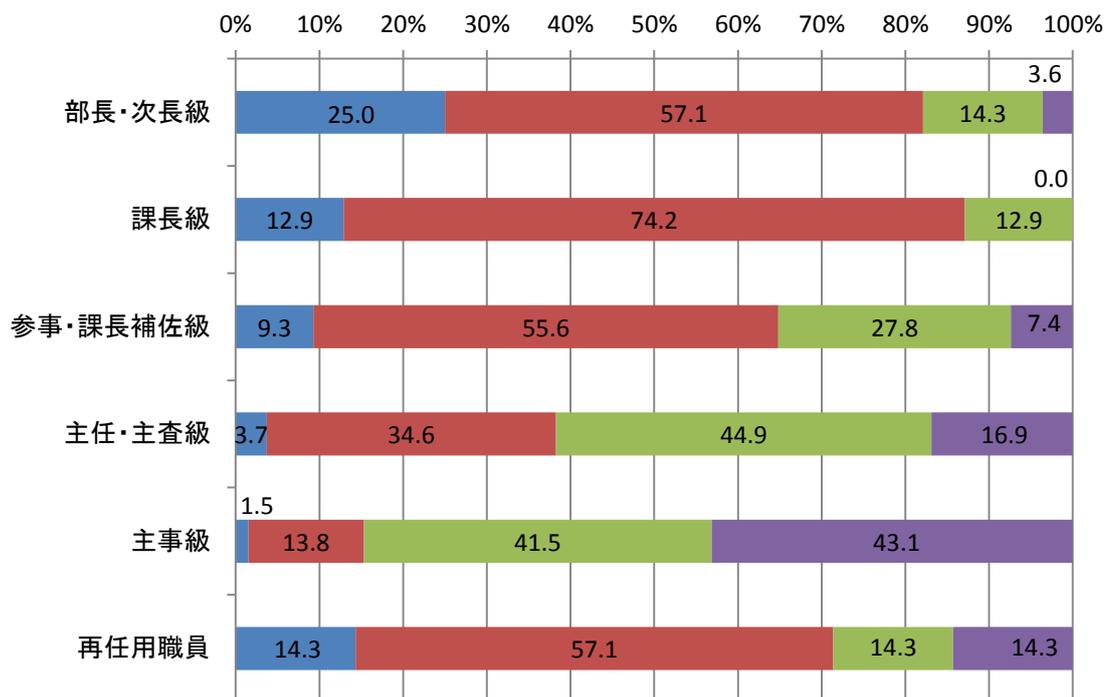
#### 1 行財政改革の取り組みへの認知度

【質問8】あなたは、担当する業務が「行政改革大綱実施計画」の改革項目に関連するかどうか知っていますか。

##### ①構成比（単位：％）



##### ②役職別の構成比（単位：％）



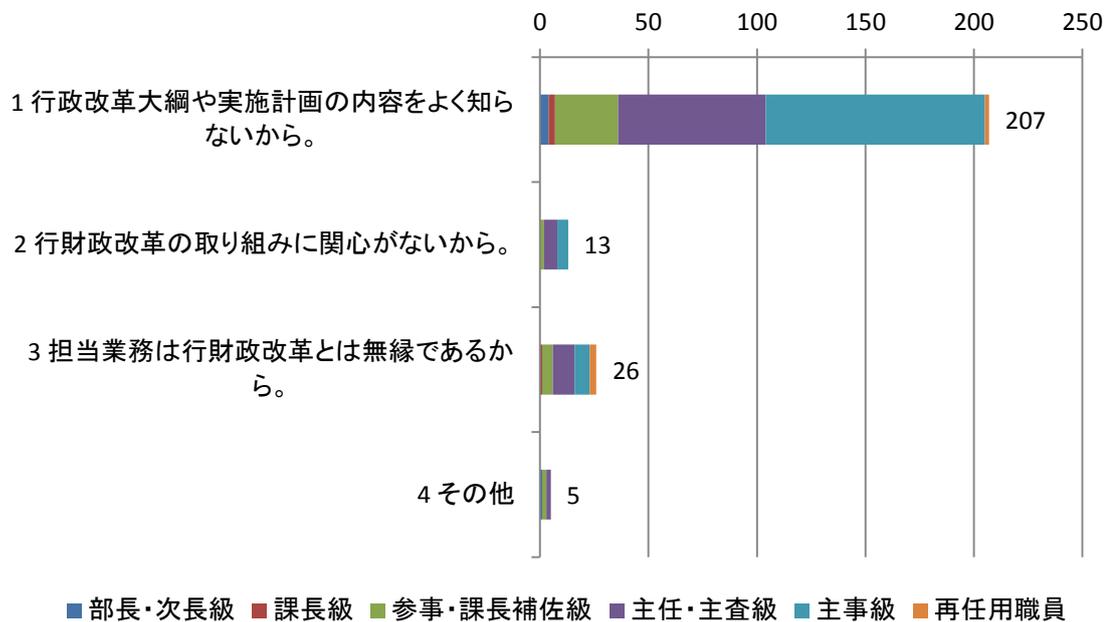
■ 1 よく知っている。 ■ 2 だいたい知っている。 ■ 3 あまり知らない。 ■ 4 ほとんど知らない。

自分の担当する業務が行政改革大綱実施計画の改革項目に関連するかどうかを知っている職員は、全体の半数に満たなかった。

役職が下がるにつれて意識することがあまりないという職員が増える傾向が見られ、特に主事級職員においては2割を下回っていた。

【質問8-①】「あまり知らない」「ほとんど知らない」のはなぜですか。

(複数回答可・単位：回答数)

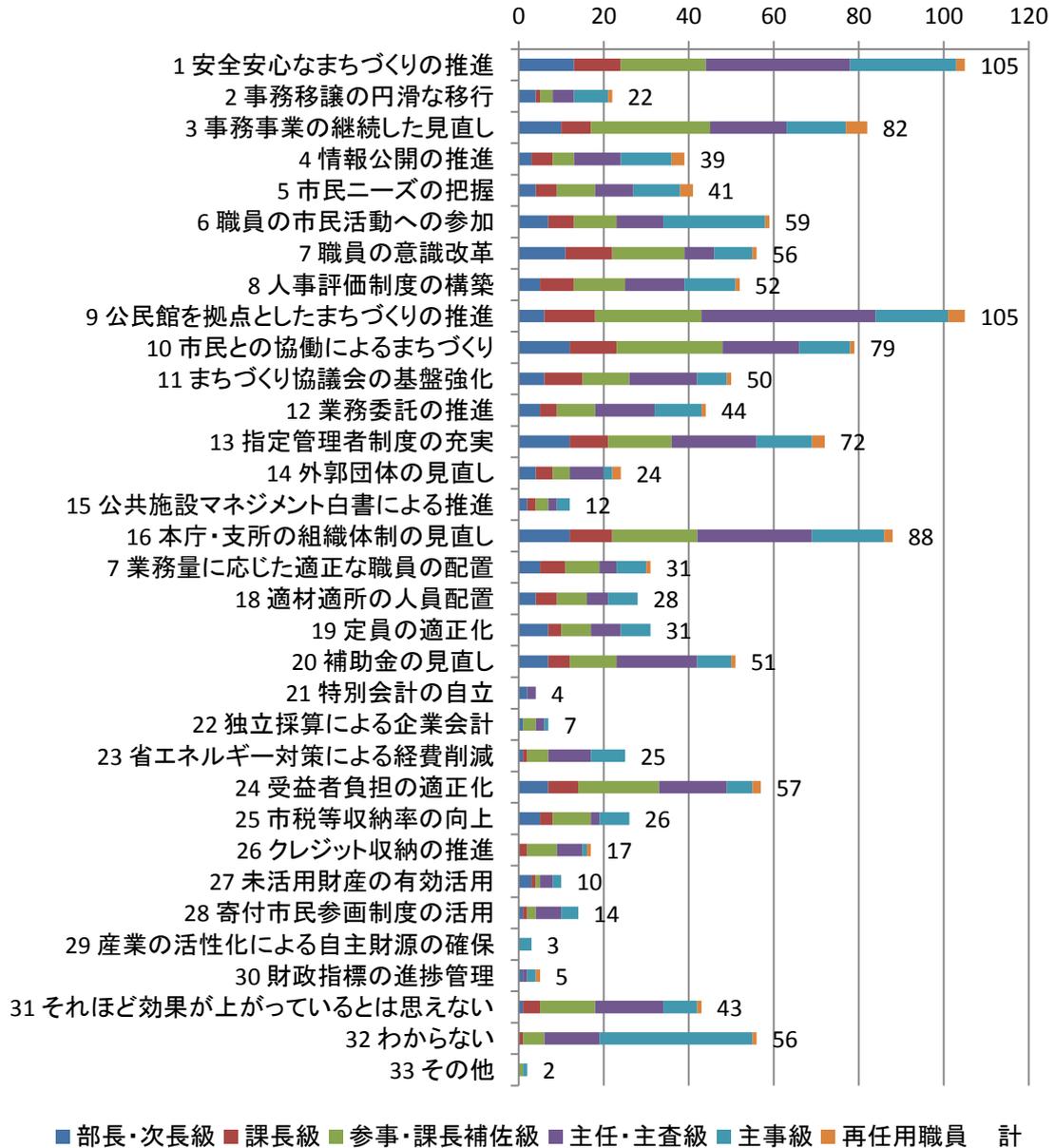


行政改革大綱および実施計画について、特に若手職員において内容についての認知度が低いという結果が見られた。

## 2 行財政改革の効果

【質問9】以下の第二次行政改革大綱実施計画の実施項目のうち、取り組みによる成果があげられているとあなたが思う項目はどれですか。

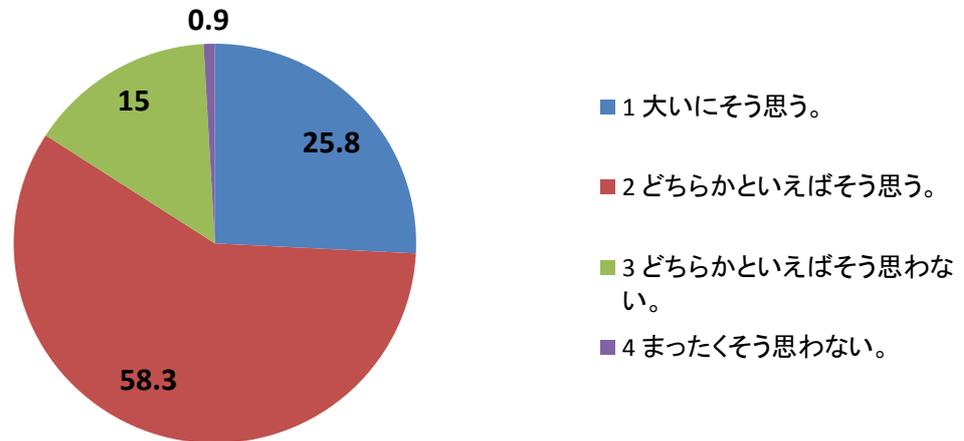
(31、32 以外複数回答可・単位：回答数)



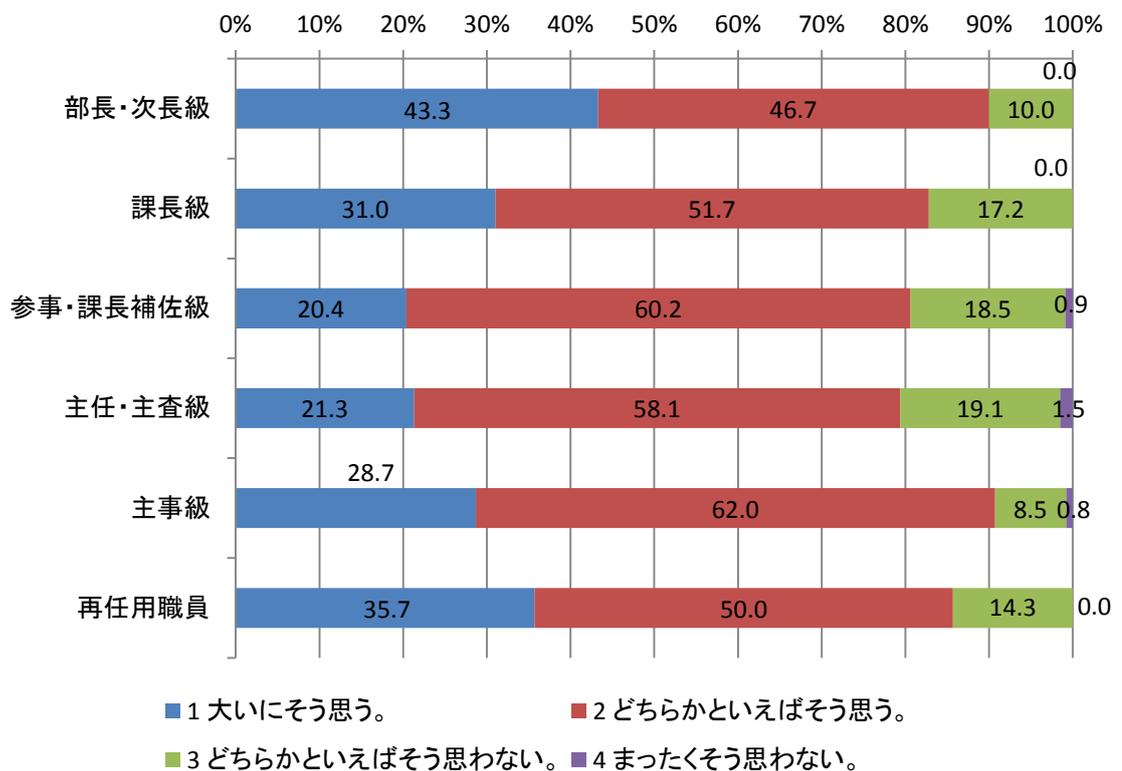
安全安心なまちづくり、公民館を拠点としたまちづくり、本庁・支所の組織体制の見直しを成果として上げている回答が多く見られた。  
 それほど効果が挙がっているとは思えないという回答も全体の1割程度見られた。

【質問10】今後も、市は行財政改革の取り組みについて、今まで以上に力を入れて実施していくべきであると思いますか。

①構成比（単位：％）

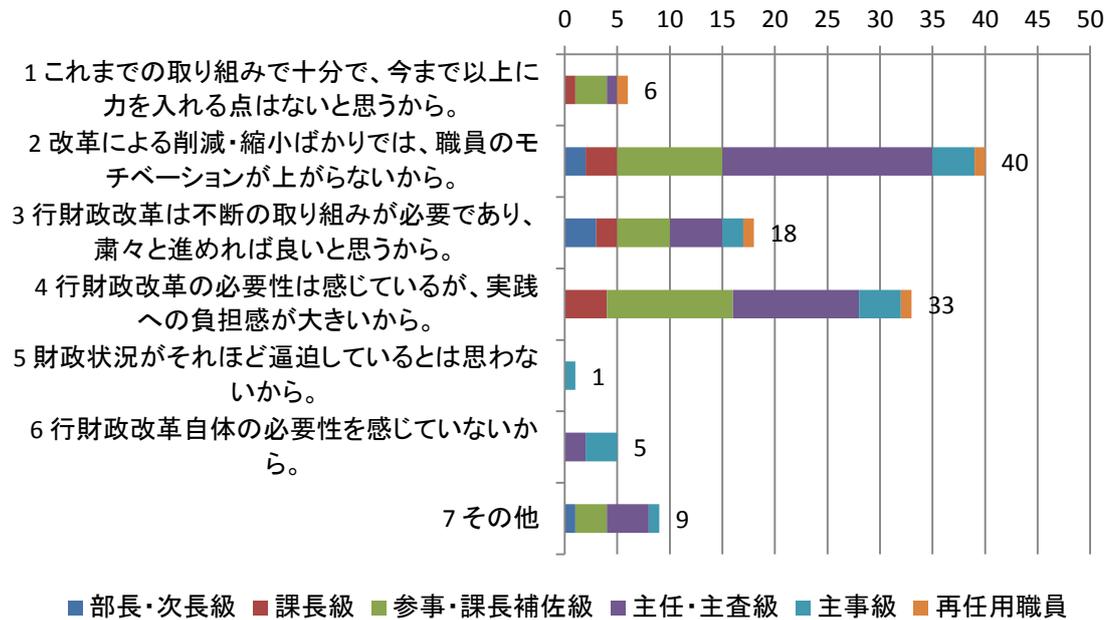


②役職別の構成比（単位：％）



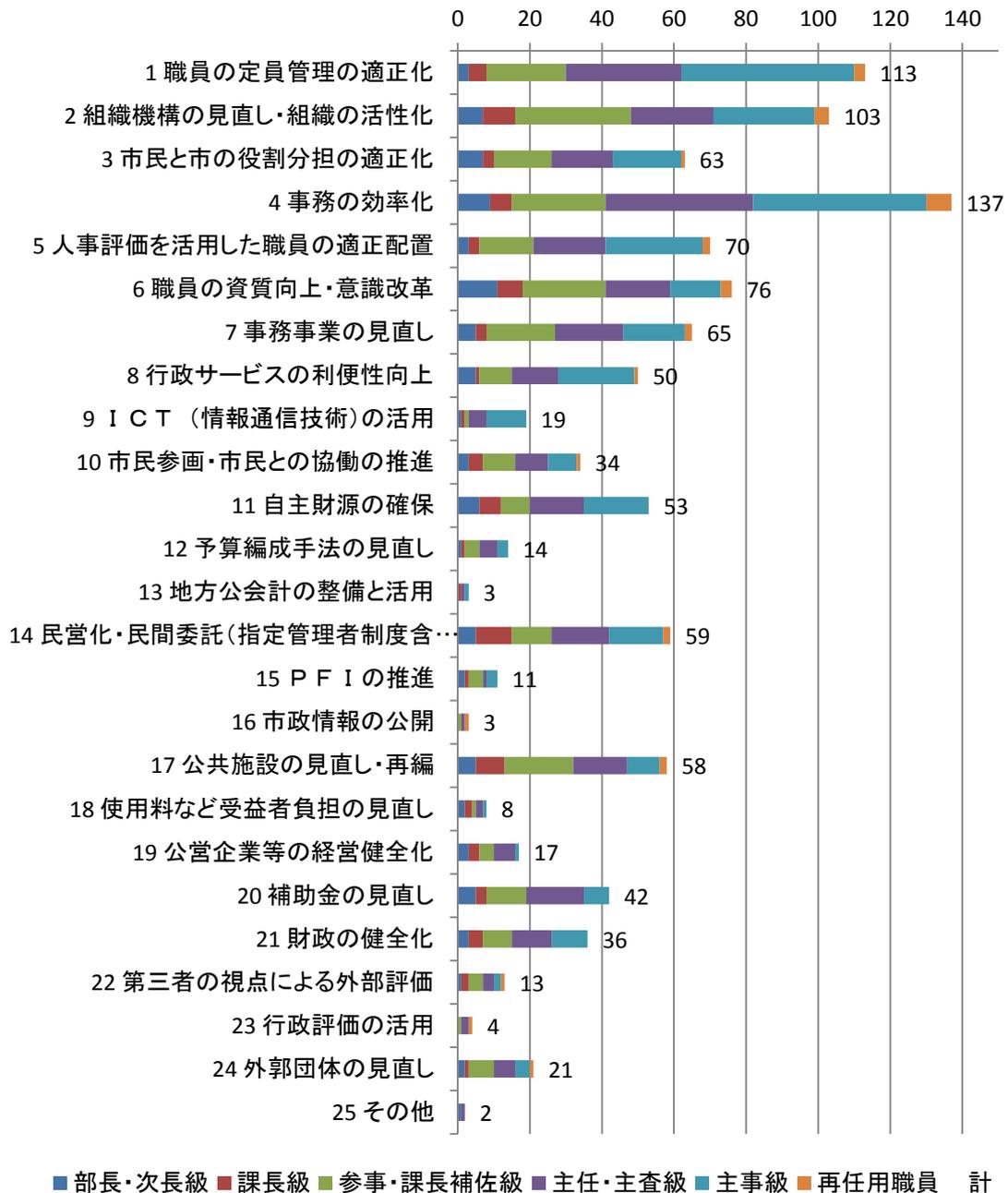
全体の8割超の職員が、市は行財政改革の取り組みについて、今まで以上に力を入れて実施していくべきであると回答している。

【質問10-①】「そう思わない」のはなぜですか。(複数回答可・単位：回答数)



行財政改革の取組に対し消極的な理由としては、削減中心の改革によるモチベーションの低下、行財政改革実施に伴う負担増をあげる回答が多く見られた。

【質問10-②】今後どのような点に重点を置いた行財政改革を実施すべきであるとお考えですか。（3つまで選択可）



今後の行財政改革にあたり重点を置くべき点としては、事務の効率化をあげた回答が最も多かった。  
 職員の定数管理の適正化。組織機構の見直し・組織の活性化についても、引き続き重要であるとの回答が多く見られた。

【質問11】最後に、行財政改革に関することや日常業務に関して何かご意見等があれば自由に記述してください。(全市・全庁的なことからあなたの担当業務に関することまで、どのようなことでも結構です)

## ◎主な意見（抜粋）

### ①業務量に関すること

○行革のことを考えることも必要だと思いますが、それよりもまず持ち場（職場）の任務をしっかりとする時間がほしいです

### ②公共施設に関すること

○各課で施設の整備を行っているが、公共施設の見直し・複合化などを考えると、どこかの課で全体的な整備方針・計画を立てて計画的にやらなければ総量は増えるかもしくは現状のままで終わってしまう。ファシリティマネジメントの考えを!!

○四町が合併して坂井市となったため、旧町単位で同じような施設が多くあり、費用が必要となっています。公共施設の見直しを行い、本当に必要なものかどうかを考えることが課題ではないかと思います。今後人口は減少していくと言われていきます。10年、20年先を見据えて考えていかないといけないのではないですか？旧町単位で考えるのではなく、坂井市全体で考えていく時期に来ていると思います。

○PPP/PFIは今後の事業展開にはぜひ前向きな検討が必要だと思います。地方では難しい、都会だからできるといった固定観念を排し、取り組みが必要ではないかと思っています。

### ③組織に関すること

○本庁と支所間で構造的な部分にムダがあるように思います

○本庁の業務に対し、必要な人員が確保されていないと感じる。また、支所に中途半端に業務を担うことを期待するきらいがあるように思う。支所はむしろサービスセンター並みで良く、主な戦力を本庁に集約させなければ余分な職員が今後とも必要になり、財政を圧迫する人件費は抑えられないと考える。全職員が配置可能な規模の本庁舎及びそれらの職員の通勤が困難とならない駐車場が必要ではないか

○全体的に見て職員数が足りていない課があると思う。そのため事務に深くかかわることができず、目の前の業務に追われるだけの仕事になっている。支所の職員を本庁に集約していく体制に早くしてほしい

### ④行財政改革推進体制に関すること

○行財政改革が必要なことも理解できるが、それを行うための職員の事務量が増えることは本末転倒だと思う

○チャレンジ精神を持って坂井市を変えて行ってほしいです。そのためには、私たち

職員の意識改革が大事だと痛感させられる毎日です

- 日々の業務もあり、行革への意識がなかなか持てないことが大変心苦しいです。定員適正化など内向きの行革は目に見えて進んできているように感じます。合併10年を迎え、そろそろ外向きの行革というか、市民にも行革の一端を担ってもらうことも必要ではないでしょうか。例えば施設・補助金・団体等の見直しなど。職員だけで行革を進めることはいつか限界が来ると思います
- 行財政改革は大変重要なことだと考えている。各業務の小さな見直しから大きな成果があると思うので、今後も進めてほしい
- 職員削減（定員の適正化）から質の改革（仕事の中身）へ
- 個々の取組みの前に、組織・部署等での取組みから個々の取組みに広げていくことが重要だと思う

#### ⑤事務事業見直しに関すること

- 財源に見合った事業の実施・新しい事業に取り組まない決断が必要だと思う・ライフライン関連の事業に重点を置く行政
- 坂井市が合併して10年が経っても未だに旧町単位で物事を考えることが多いと思う。坂井市全体として事業を考えれば、むだな費用を使わなくてもいいと思うことが多々ある
- 今現在している事業を再度見直して、本当に必要かどうかを見極めてやめる勇気も必要だと思う

#### ⑥市民協働に関すること

- 一部の声の大きい人の意見を市民の声として行政に反映させるのは大多数の市民の声を無視することになる
- 行財政改革は、市民も職員も負担してこそ進むものと考え
- 地域を取り巻く課題・市民のニーズは複雑化・多様化してきているため、様々な見直しは必要だが、行革が進みすぎると苦情が増えると思われる。市民の意識改革が必要
- 市民協働は大いに進めるべきだと思いますが、その着地点について議論を始めるべきだと思います。例えばこのままイベントだけやっていけばよいのか、地域の街灯管理などミニ行政を担ってもらうとか

#### ⑦事務簡素化に関すること

- 内部からの調査・報告依頼が多く、本来の業務を圧迫することが増えてきている。調査等の効果についても甚だ疑問であり、今後このような調査等で本来の業務にしろ寄せが来るのは遺憾である
- 事務手続き（手順）などが複雑化しているため事務量が肥大していると感じる

## ⑧コスト削減に関すること

- 職員一人一人が少しでもコスト削減のことについて考えれば、節約はまだできると思う（丁寧に確認することによる印刷ミスの減少・一分でも短く残業時間の短縮）
- 坂井市をPRしていくような業務では、あらゆる面でコスト削減では堅実以上にさみしさを感じる。坂井市が観光のまちであるにはやはり魅力的に見えなければならず、一概にコスト削減ではなくどこにお金を使うかを考慮しなければならない気がする。平均してコスト削減につながるような努力は皆必要

## ⑨職員の意識に関すること

- 行財政改革には職場の意識改革が最も重要であり、全庁的に取り組むことができれば大きな成果が得られると思います。
- 組織全体として行財政改革という意識が低くなっているので、今一度坂井市の現状と将来分析についてきちんと教えてほしい
- 職員が自身の業務に追われ、他の業務に関心を持つことができなくなっていると思います。職員が市全体に興味を持ち、互いに意識を高めあう環境づくりが必要だと思います。そのために、横の連携・他部署との意見交換会などを行ってはいかがでしょうか
- 行財政改革、日常業務に対して、職員が常に問題意識を持っていなければ、事務レベルの現状維持も覚束ないものと思います。業務改善について、話し合いをする機会（課内会議等）を定期的に設ける取組みを実施してはどうでしょうか